

絵に表す題材における 発想・構想の力を育てる指導の工夫 — 交流活動と試行活動を通して —

研究領域 図画工作科
長期研修員Ⅱ 中村 順子

＜資料編＞ 実践題材の指導展開案と児童作品

- 4学年 「原始の力」～線に託すメッセージ～ (全2時間)
- 1学年 「このみちとおって」想像の絵 (全5時間)
- 4学年 「村の音楽おじさん」物語の絵 (全4時間)
- 6学年 「木と友達」見ることから想像した絵 (全9時間)



4年「原始の力」なわの筆で描く



4年「村の音楽おじさん」コーヒーやコンテで描く



1年「このみちとおって」ならんで試し描きする



6年「木と友達」相談しながら描く

4年生「原始の力」～線に託すメッセージ～

1 目標 古代の人になったつもりで、なわ筆で表現できる単純で力強い線を生かして、自分のメッセージを岩に描くつもりで表す。

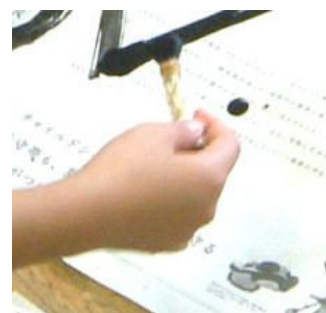
2 評価規準

関心・意欲・態度	なわ筆で力強い線を引く楽しさを感じながら、全身で表現しようとする。
発想・構想	試しながら、自分のメッセージを託した線を見付ける。 自分の思いに応じて、必要な材料と色の組み合わせを選択する。
創造的な技能	なわ筆の運びの緩急、線の長短、重なりを工夫して自分のメッセージを描く。 色の組み合わせとマチエールを工夫して岩の様子を表す。
鑑賞	自分と友達の作品のよさを見付ける。

3 指導計画〈全2時間計画〉

準備 児童 新聞紙1日分 墨 リキッド粘土を入れられるトレー
絵の具セット ぞうきん のり

教師 ラスコウ壁画のコピー 教師製作の参考作品
墨を入れる紙コップ 白のポスターカラー おたま
なわ筆（麻なわを7~8cmに切り、上下を輪ゴムでとめたもの）
作品をはる台紙（全紙を半分に切った大きさ）
リキッド粘土+シャモットの砂+木工用ボンド少々
（シャモットの量はザラザラ感の好みに応じて混ぜる）



なわ筆

過程	主な学習活動	分	支援及び指導上の留意点	評価規準
発想	○「古代の人になったつもりで、自分のメッセージを線にたくしていく。」ねらいを知る。	10	○ラスコウ壁画のコピーを見て、何が描かれているのか、なぜ岩に描いたのかを考えることで、単純な線に込められた力強さと祈りを感じ取れるようにする。	（観点） 〈評価方法〉
構想	○なわ筆で新聞紙に試し描きする。心を解放して、思いのままに線を引きながら、メッセージを託す線を見付けていく（写真1）。	10	○なわ筆の使い方と多様な線の引き方を教師が試演をすることで、なわ筆の使い方や多様な線について理解できるようにし、何を試行すればよいのか見通しがもてるようにする。 ○自然な交流が生まれるように、広い教室の好きな場所を選んで製作できるようにする。 ○新聞紙を何枚でも使って試し描きをすることで、自分のメッセージを表せる線を見付けていけるようにする。 ○自由にのびのびと試し描きできるようにするために、なわ筆の低い位置を持ち、全身を使って、線を引くように助言する。 ○心を解放して、描くこと自体を楽しむよう助言することで、描かれた線のおもしろさに気付けるようにする。 ○一本の線に込められた子どものメッセージを聞きながら、個々の思いを共感的に受け止めていく。	○試しながら、自分のメッセージを託した線を見付けている。 （発想・構想） 〈作品〉
	写真1 自分の好きな場所で製作する子ども			
	○『交流タイム』友達の作品を自由に見て回り、参考で見られる線を見付ける。	5	○友達の試行作品から、線の太さや長さ、勢い、単純な線の重なりなどの工夫を見付け、自分の作品の参考にできるようにする。	



写真1 自分の好きな場所で製作する子ども

構 想	○自分のメッセージを託し、 作品を描く。	10	○古代人になったつもりで自分のメッセージを線に託し、 画面にまとめるよう助言する。	
	○自分の作品が描かれた岩盤 を想像しながら、材料や色を 選び余白を塗り、岩盤の様子 を表現する（写真2）。	40	○次の作業の時に墨をひっくり返さないようにするため に、線で描く作業が終了したら、墨の入っている紙コップ を集める。 ○「ポスターカラー」で塗るとかさかさとした感じの表面 になる、「砂を混ぜたリキッド粘土」で塗るとザラザラし た感じの表面になることを、教師が試演しながら説明する ことで、自分のイメージに合わせて材料を選択できるよう にする。 ○背景の製作は、墨で描いた線の間をうめるようにぬって いくが、墨の線が消えてしまったら、上から描き足す方法 があるので、思い切って岩を描く気持ちで取り組むように 助言する。リキッド粘土は重いので、手でぬる方法もある。 細かいところは、筆を使った方が塗りやすいことを助言す る。 ○色は始めに混ぜる方法と上からぬる方法があることを紹 介し、イメージに合わせて選択できるようにする。	○岩の様子を 考え、材料や 色を工夫して 表現している。 (技能)〈作品〉
表 現				
	写真2 岩盤の様子を表現する子ども			
	○新聞紙の周りを手でちぎ り、好きな色の台紙に貼る。	10	○自分の作品を壁画を岩盤から切り取って作品にするイメ ージを伝え、新聞紙の周りを手でちぎる様子を見せる。 ○作品のまわりの部分にのりをつけるように助言する。(ポ スターカラー中心で製作した作品で、裏面の乾いているも のはのり付けできる。リキッド粘土で描いた作品は乾燥す るまでに数日かかるので、乾いてからのり付けする。)	
	○題名をつける。 ○後片付け	5	○題名は、見る人に自分のメッセージを分かってもらえる 言葉を考えるよう助言をする。 ○床が汚れるので、作業終了後全員でぞうきんがけをおこ なう。	
鑑 賞	○後日、友達作品を鑑賞し よさを書く。		○鑑賞プリントを用意し、記入させることで、よさを見付 けられるようにする。	○自他の作品 のよさを見付 ける。(鑑賞) 〈プリント〉

＜児童作品＞



「変な生き物」



「外遊び」



「カラフルな島」



「輝く」



「生きることの意味」



「死神マンモス」



「なぞの暗号」



「狩りをする人」



「狩り」



「昔の字」

1年生 「このみちとおって」 想像画

<p>前時に実践〈全2時間計画〉</p> <p>『ころころぺったん』</p> <p>ローラーやスタンプを使った造形遊び (作品1、作品2)</p>	<p>○全身を使って描くことができるように、ひとり1枚模造紙を使う。</p> <p>○きれいな色を保つために、色ごとにローラーを使い分ける。</p> <p>○絵の具を床に垂らさないように、ローラーに新聞紙を添えて、忍者のようなしのび足で運ぶ約束をする。</p> <p>○友達と協力して紙を長くつなげるなど子どもの発想に対応できるように、余分な紙やガムテープなどを用意しておく。</p>
--	--



写真3 造形遊び「コロコロペッタん」の作品を給食コンテナ室に展示した様子

「コロコロペッタん」の作品を展示したコンテナ室の様子。上方の細長い作品はみんなで長くつなげた紙に描いたもの。その下は一人一枚模造紙に描いた作品(写真3)。



作品1 「ゆうえんちとふんすい」たまねぎ・ローラー



作品2 「びっころ」手形・ピーマン・空き容器・ローラー

『このみちとおって』

〈全5時間計画〉

1 目標

一本の道を通って行きたい世界のイメージをふくらませ、想像した世界をローラーやクレヨンの使い方を工夫しながら思いのままに表現する。

2 評価規準



写真4 全員の作品を廊下に展示した様子 みんなの作品が一本の道でつながる

関心・意欲・態度	思い付いたことを進んで話したり、用具を試したりしながら、自分の方法で思いのままに表すことを楽しもうとする。
発想や構想の能力	楽しい感じになるように、好きな色を選び、ローラーやクレヨンの使い方を工夫する。楽しく遊んでいる様子を話しながら、登場するものの置き方を考える。
創造的な技能	色や形の楽しい感じを見付け、ローラーやクレヨンの使い方を工夫しながら、想像した世界を思いのままに表現する。
鑑賞の能力	自分や友達の作品から、色の美しさやローラーのあと、クレヨンの塗り方の面白い感じを見付ける。


3 指導計画 <全5時間計画>

準備 生徒 汚れてもよい服 手を拭くタオル 新聞紙



教師 横長画用紙 (27cm×76cm) 試行用の紙 墨 紙コップ なわ筆 模造紙
 スポンジローラー中、小、丸型 (15本ずつ) 絵の具を出すバット (10枚)
 絵の具 (ポスターカラー+水+ボンド) をペットボトルに入れたもの
 今回は十色を用意 (白、レモンイエロー、黄緑、緑、セルリアンブルー、コバルトブルー、マゼンダ、赤、朱、黄)
 ローラーの跡と色の変化の参考資料、参考作品 (写真6)

< 1・2時間目 >

過程	学習活動	分	支援及び指導上の留意点	評価規準
	○自分の好きな道を描く (写真5)。	10	○横長の画用紙の左右中央に印をつけておくことで、左右の印の間を一人一人が自由に結んでも、作品を並べた時に道が一つにつながるようにする。 ○なわ筆に墨をつけて一本線をひく様子を教師が試演することで、材料・用具の扱い方を理解できるようにする。 ○墨で描く前に、画用紙を指でなぞって、いろいろな道を描いてみることで、自分の表したい道のイメージをつかむことができるようにする。	(観点) (評価方法)
	 <p>写真5 なわの筆で自分の好きな一本道を描く子どもたち</p>			
発想	○思い付いた「自分が行ってみたい世界」を交流することで、イメージをふくらませる。	20	○教師を中心として行ってみたい世界のイメージを交流させる。子どもからでた意見を黒板に貼った一本道の両側に書くことで、情報の視覚化を図り、多様な意見を参考に自分のイメージをふくらませることができるようにする。 ○多様な色、ローラーの動かし方の変化のある参考作品を提示して、「どんな感じを表現したのか」を考えることで、自分のイメージと色や表現方法を結びつけて考えられるようにする (写真6)。	○話し合いに進んで参加している。 (関心) (活動観察)
	 <p>写真6 交流活動の参考作品</p>			
構想	○好きな色とローラーを選び、自由に試しながら、自分の行きたい世界のイメージを表すことのできる色と表現方法を見付ける。	15	○多様な色と用具を準備し、自分の好きな色とローラーを選べるようにする。 ○試行活動の時間を確保して、じっくり取り組めるようにすることで、自分のイメージに合う色とローラーの使い方を見付けられるようにする。 ○ローラーの跡の面白さを生かせるように、絵の具をつけすぎないように注意を促す。つけすぎてしまった時は、新聞紙にこすって余分な絵の具をとるように助言する。	○試しながら、イメージに合う色とローラーの跡を見付けている。 (発想・構想) (活動観察)
表現	○友達の試行作品を自由に見て回り、自分のやってみたい色やローラーの跡を見付ける	5	○自他の作品から、自分の好きな感じを見付けることで、本番の製作のヒントにできるようにする。 ○子どもが自由に作品を見た後、教師が見取っておいた工夫された試行作品を紹介することで、色の組み合わせやローラーの使い方のヒントにできるようにする。	

	○色の組み合わせやローラーの使い方を工夫して、実際の作品を描く(写真7)。	25	○色の重ねやローラーの動かし方を工夫して表す様子を見付け替めることで、自分のイメージした世界が表現できるようになるがす。		○色やローラーの跡を工夫しながら、いつてみたい世界を表現している。(技能) 〈作品〉
	○後片付け	15	○床ふき	写真7 実際の製作取り組む子どもたち	

< 3・4・5時間目 >

発想	○何をしているところを表現したいのか動作化して考える(写真8)。	20	○前時に行ってみたい世界の意見を書いた模造紙を掲示し、それぞれの世界で何をしたら楽しいかみんなで体を動かしながら考えることで、手足の動きを意識して自分の表したいことをイメージできるようにする。取り上げる動きの多様性に配慮する。 ○子どもが動作している姿を教師が実際に描いて見せることで、人の動きの描き方を理解出来るようにし、動きを表現に結び付けられるようにする。		○動作しながら、何をしているところかイメージしている。(発想・構想) 〈活動観察〉
表現	○登場するものを油性ペンで自由に描く。 ○気に入った表現方法を試しながら、クレヨンで思いのままに描く。(写真9)	5 20 45	○27×76cmの画用紙の中に配置するのに適した大きさで、いろいろな形に小さくカットした画用紙を5~6枚渡し、イメージに合わせて画用紙を選べるようにする。 ○「間違えたら重ねて線を描く」ことを伝え、失敗を気にせずに思いついたことを描けるようにする。 ○手足の動きを表現できた子どもの作品を全体に紹介し、動きの表現の仕方を参考にできるようにする。 ○クレヨンの表現方法(色を重ねてぬる方法やぬってからティッシュでこすってぼかす方法、黒は最後に使う)を試演し、気に入った方法を自由に試しながら表現できるようにする。 ○机間巡視の際、色の組み合わせやクレヨンの塗り方の美しい作品を見付けて紹介し、表現の参考にできるようにする。		○手や足の動きに注目しながら人の動きを表現している。(技能) 〈作品〉
構想	○描いたものを大まかな形に、はさみで切り取る。	10	○はさみの正しい使い方を指導する。 ○早く切ることができるようになるために、シールのように大まかな形に切る。		
	○隣の友達に、何をしているところか話をしながら、切り取った紙を作品の上に置いていく。	10	○友達に話すことで、画面に置く位置を考えられるようにする。		○友達にお話をしながら、配置を考えている。(構想) 〈作品〉
	○のり付けをする。	10	○後ではがれてしまわないように、下にいらぬ紙を敷き、周辺部にのりを付けていくように指導する。		
鑑賞	○友達の作品を見て「ここいいね」鑑賞カードに記入する。	15	○見つけたことを言葉で書くことで、次の製作に生かせるようにする。「ここいいね」の鑑賞カードを交換することで、認め合えるようにする。		○自他の作品のよさを見付ける。(鑑賞) 〈鑑賞カード〉



「きれいなうみ」



「はなばたけ」



「あおいうみ」



「うみのなか」



「ほのうのせかい」



「つめたいこおりのうみ」



「きょうりゅうのもり」



「うみのせかい」



「あたたかいせかいであそんでる」



「たべてたべてたべまくる」



「うちゅうのまち」



「きれいなうみ」



「うみのなか」



「きれいなうみのせかい」

4年生 「村の音楽おじさん」 (物語の絵)

1 目標 登場人物や周りの様子を豊かにイメージし、描画材料を試しながら思いに合う組み合わせを見付け、表現方法を工夫しながら自分だけの物語の世界を表現する。

2 評価規準

関心・意欲・態度	自分のイメージを進んで話したり、描画材料を試したりしながら、物語の世界を意欲的に表現しようとする。
発想や構想	おじさんの人柄が表れるように外見や動きをイメージし、自分の思いに合う描画材料の組み合わせを見付け、表現方法を考える。
創造的な技能	造形的なよさを考えながら、材料の特性を生かす表現方法を工夫し、自分だけの物語の世界を表す。
鑑賞の能力	思いを表現するための描画材料の組み合わせの効果など表現方法の工夫やよさを見付ける。

3 指導計画 (全4時間計画)


準備 児童 パレット、筆、水入れ、ぞうきん、新聞紙、のり、汚れてもいい服
 教師 4つ切り画用紙、試用16切り画用紙、コントラバス、
 CD (コントラバスの演奏) 墨、紙コップ、割り箸
 インスタントコーヒーの粉、コンテ3色 (黒、焦げ茶、茶)

< 1・2時間目 >

過程	学習活動	分	指導・支援の留意点	評価規準
発想	○物語を読む。		○物語の雰囲気を感じ取れるように、コントラバス演奏の音楽をかけておく。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「村の音楽おじさん」 雨がザーザーふりやまぬさみしい村がありました。 帽子をかぶったおじさんが かさもささずに コントラバスを弾く 雨はやみ空には星もやってきて 村は明るくなりました。 </div>	(観点) (評価方法)
	○主人公のおじさんはどんな人かイメージを深める。	30	○「どんな人か」「どんな村か」思い付いたことを学習プリントに書くことで交流活動に進んで参加できるようにする。 ○教師が中心になり、人柄や外見の様子 (帽子、服装、身長) など具体的な視点を示しながら、子どものイメージを交流させることで、おじさんのイメージを深められるようにする。 ○楽器を実際に弾くことで、楽器を弾く姿を自分のイメージに加えることができるようにする (写真10)。	○交流活動に進んで参加している。 (関心) (活動観察) ○自分の表したい思いを深める。
構想	○自分のイメージをアイディアスケッチにまとめる。	10	○自分のイメージをアイディアスケッチにまとめることで、思いを具体化し、製作の見通しをもてるようにする。	(発想・構想) (スケッチ)
	○試し描きしながら、材料の特性に気付き、自分の思	20	○教師が試演することで、材料の使い方を理解できるようにする (写真11)。コーヒーは絵の具と同じように水の量によつ	○試しながら、材料の特



写真10 コントラバスを弾く子ども

	いを表す材料の組み合わせなどの見通しを立てる。		て濃淡を表現できる。重ねると濃くなる。筆の運びで感じが変わる。コンテはクレヨンと同じようにぬれる。こすってぼかす表現もできる。割り箸ペンに墨を付けて描くと味わいの線が引ける等。 ○小さな画用紙を数枚配り、何枚でも思い付くままに試すことができるようにする。細かいことを気にせずに、おじさんやコントラバスを試し描きするように助言し、材料の特性と面白さを感じ取ることができるようにする。試すことで、自分の思いを表現するために、どんな材料の組み合わせを使って表現していこうか考えられるようにする。	性を理解し、材料の組み合わせなど製作の見通しをもっている。 (発想・構想) (活動観察)
				
	写真11 教師の試演をみる子どもたち			
表現	○自分の見通しにそって、本番の表現をする。	25	○自分なりに工夫して表現している様子を見取り、誉めることで自信をもって製作に取り組めるようにする。 (コーヒーで濃淡の表現・筆の運びの工夫・コンテの色組み合わせ・割り箸ペンの線の味わい・材料の組み合わせ等) ○用具の扱い方にとまどう子どもに技術指導をおこなう。	

< 3・4時間目 >

構 想	○造形的なよさを考えながら自分の作品を見直し、自分の思いを表すためにどこを工夫するのか考える。	15	○前時の作品のうち、改善点のある作品を示しながら、工夫のポイントについて説明することで、造形的なよさを考えながら、自分の作品を見直すことができるようにする。 (見直しのポイント) 画面全体のバランスがとれているか、描かれた大きさは適切か、明暗の変化があるか、多様な材料を使っているかなど ○失敗したと思っても、上から描く、模様にする、他の材料を使うなどの工夫で乗り越えられることを例示する。	
	○自分の見通しにそって、ものの重なり、材料の組み合わせの効果などを工夫し、自分の表したい物語の世界(主人公と周りの様子)を表現する(写真12)。	30	 写真12 制作中の子ども	○図鑑を教室に置いておき、周りの様子を描く際、必要に応じて子どもが自由に見て参考にできるようにしておく。 ○画面のバランスがとれるように、空いている空間の利用方法、描かれたものの大きさ・重なり、材料の組み合わせを考えさせる言葉がけをおこなう。
表 現	○自他の作品から表現の工夫を見付け、自分の製作の参考にできることを学習プリントに書く。	10	○製作の手を止め、自分の作品を離れて見たり友達の作品の工夫を見付ける交流活動を行う。見付けた工夫点を学習プリントに記入させることで、自分の作品をよりよくしていくために、どのように工夫していきたいのか明確にできるようにする。	○自分の思いを表現するため、工夫していききたいことをカードに記入している。
	○見通しにそって製作する。	30	○自分の思いを表現するための工夫ができるように、子どもの思いを聞きながら、描画材料の組み合わせ、使い方などの助言を行う。	(発想・構想) (プリント)
鑑 賞	○友達の作品を鑑賞し「こいいね」を鑑賞カードに記入し交換する。		○鑑賞カードを交換することで、相互の工夫を認め合え、今後の製作に生かせるようにする。	○よさをカードに記入している。(鑑賞) (カード)

<児童作品>



「さみしいおじさん」



「やさしいおじさん」



「不思議なおじさん」



「音楽おじさんとカラス」



「さみしい村の音楽おじさん」



「不思議なおじさん」



「コントラバスをひくおじさん」



「夜空を見上げたおじさん」



「しろい顔のおじさん」

6年生「木と友達」（見ることから想像した絵）

1 目標 好きな木で自由に過ごす自分の思いが表れるように、形や色の構成の美しさを考えながら水彩絵の具の表現方法を工夫して表す。

2 評価規準

関心・意欲・態度	自分の考えを話したり、表現方法を試したりし、進んで製作に取り組もうとする。
発想や構想の能力	自分の思いを表す配色計画や画面構成、水彩絵の具の表現効果（混色、重色、濃淡、筆のタッチ）を考える。
創造的な技能	自分の思いを表す主調色や奥行きを選び、水彩絵の具の使い方を工夫しながら表す。
鑑賞の能力	表現意図に合わせた、配色、画面構成、表現方法の工夫を見付ける。

3 指導計画〈全9時間計画〉

準備 児童 水彩絵の具一式

教師 参考資料 スケッチ用の見取り枠 スケッチ用紙 アイディアスケッチ用紙
ストップウォッチ 児童名前磁石 学習プリント 試作用16切り画用紙
4つ切り画用紙 参考作品

〈1・2時間目〉 目標 木の特徴をとらえたスケッチをもとに、そこで遊ぶ自分を自由に想像しながら、画面構成を考える。


過程	学習活動	分	指導・支援の留意点	評価規準
表現	○校庭に出て、木の特徴を捉えて、簡単なスケッチをする。	45	○実際の木を観察しながら対象の特徴の捉え方を指導し、短時間のスケッチで見たことを絵におきかえることができるようにする（参考資料1）。 〈指導内容〉 ・紙枠を用いて、自分の描きたい風景を切り取る。 ・視点の違いによる、地平線と根本の位置の変化 ・対象までの距離による表現の変化。 （近いと枝など部分が詳しく、遠いと全体の形） ・自分の好きな木のどこを描きたいのか決める。 ・地面から水を吸い上げて、幹から枝へ伸びていく、命の流れをとらえる。 （木全体の雰囲気、枝分かれの様子、伸びる様子）	（観点） 〈評価方法〉 ○観察の方法をふまえて自分なりにスケッチしている。（技能） 〈スケッチ〉
発想	○「木で何をしたいか」交流しながら自分の表したいことを見付ける。	15	○全員の考えを交流させるために、全員発言のフリートークをおこなう。自分のイメージをもちやすいように、近くの友達と相談の場をつくる。 ○黒板に描いた木にネームプレートをはり、木のどの位置で何をしてみたいのか視覚化することで、友達の発想を参考に、自分の思いをふくらませることができるようにする（写真13）。	○主題についてイメージしたことを交流することで、自分の思いをふくらませている。 （関心） 〈活動観察〉



参考資料1 視点による違い



写真13 ネームプレートでまとめた意見

構 想	○自分のイメージをアイデアスケッチしながら、何を表していきたいのかまとめる<児童作品1>。	15	○スケッチと交流活動で得た自分と木の関わりのイメージをアイデアスケッチにまとめ、自分の表したいことを形にできるようにする。	○思いを形にまとめている。 (発想・構想) (スケッチ)
	○小グループで検討する。 	10	○画面構成の考え方として、画面全体のバランス・地平線の位置とものの重なりで奥行きを表せることを確認する。 ○小グループで、スケッチの画面構成について検討することで、どこをどう工夫していけばよいのか製作の見通しをもてるようにし、主体的な取り組みを促す(写真14)。 ○次週の活動の予告として参考資料2を廊下に掲示	○画面全体のバランスを考え、自分の構図を修正している。 (発想・構想) (活動観察)

<児童作品1> アイディアスケッチ



(Aさん)



(Bさん)






(Cくん)



参考資料2 次週に向け廊下に掲示

(3・4時間目) 目標 色の感じの違いを感じ取り、試行活動をしながら自分の思いに合う配色計画を立て、水彩絵の具で表現する。

過程	学習活動	分	指導・支援の留意点	評価規準
発 想	○色による感じの違いをつかむ。 	10	○同じ構図で、色調の違う参考作品を見ることで、主調色による感じの違いを感じ取り、自分のイメージする世界を表現する配色を考えられるようにする(参考資料3)。 ○描いていくうちに色が汚くなってしまった経験を訊ねることで、きれいな色を保ちたい気持ちを引き出し、12色相環を利用し、反対の色を混ぜると色が濁るので、似た色を混ぜるようにするとよいことを理解できるようにする。	(観点) (評価方法)
構 想	○小さい画用紙に、思いついた主調色で木の試し描きをすることで、自分のイメージする世界を表現する配色計画を考える(写真15)。 	35	○試し描きの方法(始めは水を多く用い薄い色でおおよその形を描き、段々濃くしていく。主調色に似た色を加えて色の変化をつくる)を試演することで、表現の手順を理解できるようにする。 ○思いついた主調色で試し描きをすることで、どんな色の組み合わせがよいのか考えられるようにする。 ○2枚目は、違う色調で試すことで、気に入った色調を考えられるようにする。 ○試行活動によって決めたイメージを表現する色を学習プリントに書くことで、本番の製作の見通しをもてるようにする。	○試し描きをすることで、自分の思いに合う色調を考えている。 (発想・構想) (活動観察)
	○自分の見通しに沿って実	35	○自分の見通しにそって、色調を工夫しながら本番の製作	○見通しにそっ

表現	際の作品を表現していく。		を行う。筆の勢いを生かした表現にするために、下描きなしで直接絵の具で本番の製作に入る。間違ふことへの抵抗感を減らすために、おおよその位置取りの方法と始め水分を多く用い薄く描き、徐々に濃くしていく方法を示す。	て、配色を工夫しながら表している。(技能)〈活動観察・作品〉
構想	○小グループで思いを表す配色について検討する。 ○助言してもらった内容をもとに、次の製作の見通しをまとめ、学習プリントに記入する〈児童作品2〉。	10	 <p>写真16 話し合いの内容を発表に気付き、これからの製作を進める参考にできるようにする (写真16)。</p>	○自分の配色を見直し、見通しを立てている。(発想・構想)〈活動観察・学習プリント〉

〈児童作品2〉 主調色の試行作品と実際の作品



(Aさん)



(Bさん)



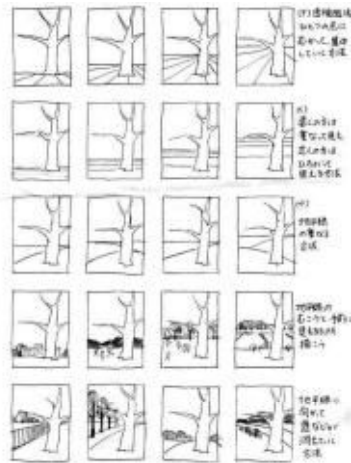
(Cくん)

〈5・6時間目〉 目標 画面構成や水彩絵の具の使い方を工夫しながら自分の思いを表現する。

過程	学習活動	分	指導・支援の留意点	評価規準
発想	○思いを表すために、作品にどんな奥行きつくとよいか考える。	10	○奥行きを例示した参考資料を示し、奥行きを表現する多様な方法があることを理解できるようにし、自分の作品にどんな奥行きをつくりたいのか考えられるようにする(参考資料4)。 ○前時の作品をデジタルカメラで写しプリントアウトした紙に、地平線と手前にあるもの奥にあるものを簡単に描き込むことで、イメージを具体化して検討できるようにする。	(観点) 〈評価方法〉
	○小グループで奥行きが表われているか検討する。	10	○小グループで、地平線の位置、手前と奥に何を描くことで、奥行きがでるように工夫しているか作品を見合い、よりよい方法を考えられるようにする。	○奥行きを表すための工夫を考えている。
表現	○奥行きを描き加える。	5	○自分で決めた方法で実際の作品に奥行きを表現するものを描き加える。	(発想・構想) 〈活動観察〉
	○混色、重色、濃淡、筆の使い方を工夫しながら、自分の思いに近付けられるように製作を進める〈児童作品3〉。	55	○製作途中の子どもの作品の中から、混色・重色・濃淡・筆のタッチなどの工夫できているところを紹介し、水彩絵の具の基本的な使い方について理解できるようにする。 ○水彩絵の具の使い方を助言することで、子どもが思いを表現できるようにする。	○彩色の工夫をしながら、思いを表現している。(技能)〈作品〉
構想	○小グループで、彩色のよさと改善点を助言し合い、	10	○彩色の工夫(混色・重色・濃淡・筆のタッチ)を検討の視点として示し、相互の作品のよさと改善点を見付け助言	

次時への見通しをたてる。

し合うことができるようにする。



参考資料4 奥行きの表し方

<児童作品3> 木の後ろに地平線などが描れ、画面に奥行きが表れる。



(Aさん)



(Bさん)



(Cくん)

<7・8時間目> 目標 立体感を表現できるように水彩絵の具の使い方を工夫しながら描き込む。

過程	学習活動	分	指導・支援の留意点	評価規準
構想 表現	<ul style="list-style-type: none"> ○立体感の表現の仕方を知り、自分の作品を描き込む見通しをもつ。 ○筆のタッチや明暗を工夫しながら立体感が表れるように作品を描き込む。 	5 70	<ul style="list-style-type: none"> ○立体感の表現の仕方の参考資料と立体感の表現できている児童作品を示し、立体感の出し方について理解できるようにする（参考資料5）。 ○色調が単調になっている子どもに対して混色をしたり、色を重ねたり、水の量を減らして明暗をつくりたりするよう助言を行う。筆のタッチが単調になっている子どもに対して、円柱を触らせ、向こう側に回り込むような線の方向や長さに気付けるようにする。 	<p>(観点) <評価規準></p> <p>○見通しにそって絵の具の使い方を工夫しながら表現している。 (技能)<活動観察・作品></p>
構想	<ul style="list-style-type: none"> ○小グループで、筆のタッチと明暗の変化のよさと改善点を助言し合い仕上げに向けての見通しを立てる<児童作品4>。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ○立体感の工夫（筆のタッチと明暗の変化）を検討の視点として示し、相互の作品のよさと改善点を見付け助言し合うことができるようにする。 ○学習プリントに記入することで、次時への見通しをもてるようにする。 	<p>○相互の作品の細部の描き込みについて助言し合っている。 (発想・構想)</p>

<児童作品4> 立体感のできるように、筆のタッチや明暗を工夫して描きこんだ。



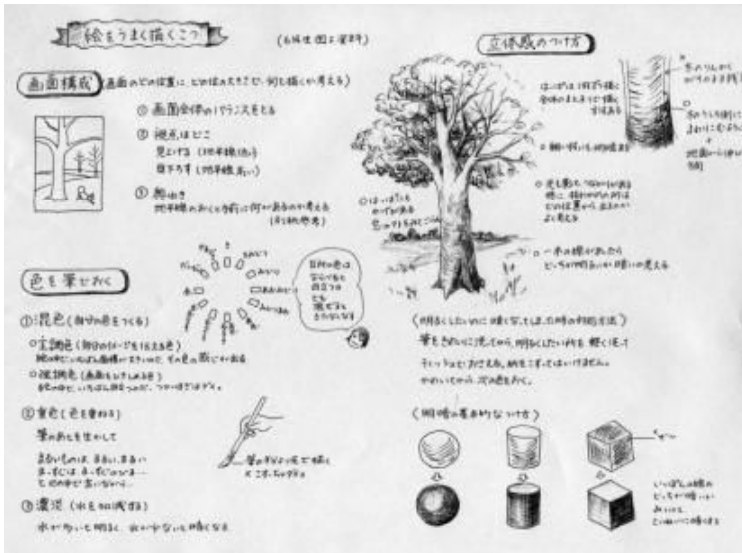
(Aさん)



(Bさん)



(Cくん)



参考資料5 立体感の表し方

参考資料6 自己評価用学習プリント

〈9時間目〉 目標 自分の思いを表すために、水彩絵の具の使い方を工夫し描き込む。

過程	学習活動	分	指導・支援の留意点	評価規準（観点） 〈評価規準〉
構 想	○自分の作品を混色、重色、濃淡の視点から見直し、友達の見直しを参考にどこを描きこむのか見直しを立てる。	10	○教師製作の参考作品を示し、表現したいことに合わせて、画面全体の明暗、明るい暗いのリズムをつくることを理解できるようにする。 ○混色・重色・濃淡の観点に基づいて作品を自己評価し、学習プリントに記入することで、何をしたらよいのか自分の考えをもてるようにする（参考資料6）。 ○自分の思いに近付けるようにするため、どこをどのように描き込んでいったらよいのか相互に気付いたことを助言し合うことで、具体的な見直しをもって製作に取り組めるようにする。	○製作の見直しをもち、自主的に製作している。 （技能）〈活動観察・作品〉
表 現	○見直しにそって、製作を進める〈児童作品5〉。	35	○自分で良いと思うところで、製作を終了させて良いことを伝え、自主的な表現追求ができるようにする。	
鑑 賞	○友達の作品を鑑賞する。		○表現意図に合わせた配色、画面構成、表現方法の工夫を見付け合い、今後の製作に生かせるようにする。	

児童作品5



Aさん「夕日と子ども」



Bさん「お昼の読書」



Cくん「秋の柿の木」

<児童作品>



「秋の夕暮れ」



「静かな夜」



「気持ちのいい午後」



「平和な世界」



「子どもだけが味わえる秋」



「みどりの風」



「夜の公園」



「たのしいおしゃべり」



「たのしいひるね」